

透析患者において血糖変動幅が大きいと HbA1c とグリコアルブミン (GA) 比は乖離する -皮下連続式グルコース測定 (CGM) による検討-

長崎腎病院

○矢野利幸 吉野秀章 高木伴幸 原田孝司 船越 哲

【背景】

昨年日本透析医学会の「血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」において、血糖管理の指標は GA を推奨しているが、従来広く用いられてきた HbA1c との相関については詳しく触れられていない。

【目的】

当院血液透析患者における GA と HbA1c との相関とこれに与える因子を検討する。

【対象・方法】

当院の糖尿病血液透析患者 62 名において、GA と HbA1c の両者を測定し、これと年齢・性・ESA 投与状況など、加えて CGM にて測定した血糖値の変動幅 (Mean Amplitude Glucose Excursions、MAGE) との関連について検討する。

【結果】

平均年齢は 62.7 ± 19.1 歳 (男性 47・女性 15 名)、糖尿病罹患歴は 14.4 ± 7.8 年、透析歴は 2.7 ± 2.1 年、平均 HbA1c は $6.4 \pm 2.5\%$ 、平均 GA は 24.5 ± 7.7 g/d l であった。ESA は 82% に投与されていたが、GA/HbA1c 比では ESA 量との明らかな相関はみられなかった。一方、GA/HbA1c 比と MAGE に有意な正の相関がみられた ($R^2=0.1993$)。

【考案】

今回の検討で血糖変動幅が大きくなると GA/HbA1c 比が大きくなる、つまり HbA1c は GA に比べて過小評価されていることを念頭におくべきである。